

Sound Create Times

2009.March

Davone Rithm × OCTAVE V80 導入記

ヴァロンDiamondをFMアコースティックス611Xでドライブし、ピオラCadenzaがシステム全体をコントロール。再生は伝説的なレーヤーLINN CD12。ハイファイかつ音楽的なハイエンドシステム。所有するシステムに変化を求めるとき、耳に馴染んだ音より過去に遡ることは中々出来ません。オーディオが天井知らずと言われるのは、人の欲求が常に上に向かっていくからではないでしょうか。



前述のようなトータルバランスの優れたものからシステム変更する場合、これだけの質感と音の佇まいを維持することは難しく、「新しい機材への更なる投資」あるいは「妥協という方向転換」のいずれかを選択しなければならぬでしょう。

お勤めの関係でお引越しの多いY様は、奥様からの提案で上記の機材を縮小するお考えで、システム探しを始められました。2008年秋に国際フォーラムで開催されたインターナショナルオーディオショーで、数ある中でもとりわけ印象の良かったものをもう一度聴いてみようとお来店。それは、オーディオでは見たことのない形をしたDavone Rithmというスピーカー。デンマークの曲げ木加工を生かして作られたこの製品は、まだ日本でもリリースされて間もないばかりか、2006年設立とまだ若いメーカーで、ラインアップはこのスピーカー一機のみ。

一度聴いてみると、エンクロージャーの大きさからは想像もつかないスケールが感じられ、音離れが良くバランスの素晴らしい音楽が眼前に繰り広げられます。それは、もちろんDavoneの素質によるものですが、加えてOCTAVEのプリメインアンプV80でドライブしていることの効果も大きくあります。例えばLINN CLASSIK



MUSIC (アンプ一体型プレーヤー)でも十分ドライブできますが、V80で駆動したDavoneは部屋中に音楽が広がり、今まで聴かれていたシステムの音に勝るとも劣らない……。

お納めしてからのお話を伺ったところ、始めはシステムの小ささに若干の不安を感じられたものの、音楽を聴くうちDavoneの深みのある音に驚かされているとのこと。

また、システム変更後に大きく変わったことは「音楽の聴き方」。以前はオーディオと対峙し調整を重ねながら真剣に聴かれていたのが、今では奥様とリラックスして聴くようになり、すごく新鮮な体験をされているとか。奥様のリクエストでクラシックの他にもボーカルものを聴かれることが多くなり、「声の深みが考

えていたより随分出るので、ボーカルを聴くのが楽しくなった。」Y様。「フツと出る音に魅力があつて、今は『音楽』を楽しんでいます。」音楽が心に響くシステムというのは滅多に出会えるものではないですが、DavoneとOCTAVE V80の組み合わせは、色々考えさせることなく音楽がスッと心に馴染む。それは、「音楽、オーディオが好きだ」という作り手の真直ぐさ、純粋さに通じている様な気がしてなりません。

Davone Rithm
SEASのインチ同軸2wayユニット使用。V80の能力がしっかりと発揮されているのはスピーカーの素性のよさでもあります。¥577,500

OCTAVE V80
ドイツの真空管アンプのブランドとして、当店ではすっかりお馴染み。同社モノラルアンプMRE130MK IIを元に設計されたドライブ力と、フレッシュで音楽性のある鳴らし方は、どんなスピーカーを持ってきても驚くような鳴りをする。プリメインアンプという枠を超えた新しい世界。¥1,344,000

LINN PRODUCTS 社 スタッフによる 最新LP12 1st EVENT



LINN PRODUCTS 社代表
ギラード・ティーフェンブルン氏
チーフデザインエンジニア
イアン・ウィルソン氏

先

日の2月19日、当店においてLINNプロダクツ社の代表に就任したばかりのギラード・ティーフェンブルン氏と、LINNのチーフデザインエンジニアであるイアン・ウィルソン氏によるイベントが開催されました。イベント内容は「クライマックスLP12(仮称)プロトタイプお披露目会。なんと興味深い内容でしようか。急な来日だったためホームページ上のみでお知らせだったうえ開催が平日の夕方だったにも関わらずたくさんのお客様にお集まり頂き、この製品への注目度が計り知れないものだと実感しました。

エンジニアのイアン氏がこれまでに手がけた製品は、クライマックスコントロール(オリジナルからSEまで)、クライマックスチャクラーズ、ギンズ、マジックアイなど、LINNのテクノロジーが集約された代表的な製品ばかり。もちろんDSを始めとしたほとんどの製品に関わり取り組んでいきます。今回のクライマックスLP12のアップグレードでは大きく2つのサブライズがあります。

まず一つは新設計フォノイコライザーがアーム直下にマウントされ、フォノケーブルを最短距離にすることにによってサスペンションの影響を皆無に。またランブルフィルターの新設計によりレコードの最低共振周波数ぎりぎりところで急峻なフィルター効果が施されたことで、最低域が音階を追って明確に再現されるうえ、素晴らしいのは低域部だけではなく、リアルな中域と天井知らずの高域は、まさかアナログでここまで聴けるとは思ってもみませんでした。LINTOを2台モノ使用のお客様が多いため、もちろんデュアルモノ構成になっております。

2つ目はコンポジット素材強化プラスチックを削出したハウジングに格納したモーター部。幾多のブラッシュ、ブラシモーターを集めて一つ一つ検証を行い、聴診器をターンテーブルに押し当て回転音を聴くと言ったような細かな作業の結果、スイス製のDCブラシモーターに決定したそうです。ブラシの角度を垂直にすることにによってアッセンブリも簡単になり、リジッドにマウントすることができず、(設計者イアン曰く「音質的に大変重要なこと」です。2年間も費やしたんだよ！)またまだ秘密はたくさんあるけどね！)また、各々を独立してドライブする電源はクライマックスの筐体に収納されています。

イベントではイアン氏から一通りの説明があった後、現行のLP12SEを数曲試聴し、いよいよ新型LP12へ。針を落とした瞬間、なんとお客様からは笑いと拍手が沸き起こりました。静寂さと、低域の伸び、浸透力、身の毛がよだつほどリアルなボーカルは想像を超越したもので、その変化はDSが発売された時クライマックスコントロールがSEとなった時の印象を遥かに超える感動をもたらしました。これぞ名機が更なる進化を遂げた、真のフラッグシップといえるでしょう。

クライマックスDSを発表するべく「LP12をもっとよく出来ないものか」と社内でも話を持ち寄りになりスタートされたというこのプロジェクト。デジタルソース「DS」が世界中で軌道に乗っている最中、社を上げてDSとは正反対のアナログシステムの最高級をまたまた追求しているLINN。音楽に對する多大なる愛情とそれ故の計り知れない探究心を感じ、どこか安心感を覚えたのは私だけではないのでしょうか。

LINN DS 周辺機器

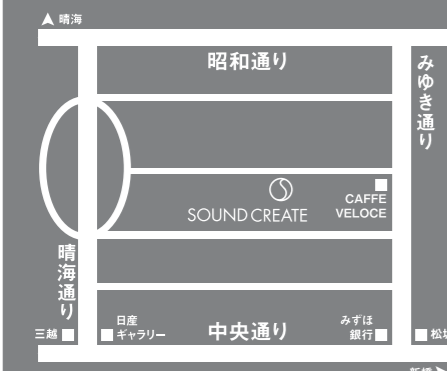
～LANケーブル～
DSに直結する部分だけでも使用すると、情報量が増し、ぐっと密度が濃くなる高音質LANケーブル。店頭でのデモンストレーション、お貸し出し、通信販売お承り致します。



Aug-Line
インターフェイスLANケーブル
¥110,000/m
(50cm毎に±¥45,000)
S/Nがよく、圧倒的な情報量で奥行き、陰影感が増す！
質感がワンランクアップし、AKURATE DSがKLIMAX DSのようになる！！



OSJ LANケーブル
¥15,750/m
(50cm毎に±¥2,100)
DS専用LANケーブルとして作成された、ハイコストパフォーマンスケーブル。



LINN DS
138台突破!!

【取り扱いブランド】
OCTAVE/VERITY AUDIO/LINN/PIEGA/B&W/SonusFaber/JBL/ELAC
Anthony Gallo/HARBETH/Davone/TRIGON/NuForce/QUADRASPIRE...ETC

〒104-0061 東京都中央区銀座5-10-6 第一銀座ビル7F
☎ 0120-62-8166 URL: www.soundcreate.co.jp
🕒 12:00~19:00 ㊟ 毎週火曜日/第2月曜日(ex.祝日)
地下鉄銀座駅A3出口より徒歩3分